



自然の猛威とエネルギー技術

津波 正治 有限責任中間法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

平成 19 年 7 月 12 日、沖縄本島に大型で非常に強い台風 4 号が襲来し、13 日の夜にかけて猛烈な暴風雨となりました。この台風は最大瞬間風速が那覇市で 56.3 m を記録し、暴風域が広く（半径 200 km～300 km）、速度が遅い（時速 20 km 前後）のが特徴で海、空の交通網への影響をはじめ、家屋やインフラ設備にも大きな影響を与えました。弊社も約 3 年振りの本島直撃による約 10 万戸（ピーク時）の停電に対し、最大限の復旧活動に努めましたが、接近から処置が完了するまで社内で 3 泊する結果になりました。

入社時にお客さまとの接点である支店業務を 4 年間経験して以来、30 年振りに支店勤務に戻ったら、いきなり自然の猛威と対面することになり、あらためて自然界の持つ巨大なエネルギーについて思い知らされました。

また 15 日の夜ようやく帰宅し、翌 16 日のテレビのニュースで震度 6 強の新潟中越沖地震が発生し、新潟、長野で甚大な災害が発生したことを知り、今回の台風と地震の猛威による災害発生に接して、電気エネルギーを供給する事業者としていろいろなことを考えさせられました。

私たち人類の歴史を考えると、今日まで、より便利な暮らしを追求し、エネルギーの使用量が増え続けてきました。そのことが CO₂ の排出量が増え、地球温暖化を招き、いわゆる地球環境問題という全世界で取り組まなければならない問題となり、限りある地下資源の問題もあって新エネルギーや自然エネルギーの利用促進、省エネルギー対策を進めております。

今回の台風襲来に関して、その猛威も巨大な風力エネルギーであることから、そのエネルギーを蓄えることが出来ないものか。台風時には通常の発電用風車は倒しておくか、回転しない工夫をしていますが、例えば台風用の風車を作り、そのエネルギーを大きなぜんまいに蓄え、時計のように一定の回転エネルギーを引き出して利用できれば、台風銀座と言われている沖縄では有効だと思ったりしています。蓄電や蓄熱以外にも機械的その他の方法で「蓄エネ技術」の開発を夢物語として勝手に想像したりしております。

自然エネルギーに着目してみると、太陽（光）、熱、風力、重力、波力、雷などが自然界に存在しています。それぞれコストの壁もある中で、実用化されていたり研究中の状況だと思いますが、自然エネルギーを利用するためには利用技術が必要であり、省エネ技術も含めた技術先進国である日本はヒートポンプ技術を活かしエコキュートを実用化しました。私たち電気事業者としても、CO₂ 対策や省エネ対策の面からも普及の拡大を目指しているところでございます。

（つは せいじ） 沖縄電力 理事 那覇支店長